

夏風邪

[咽頭結膜熱]

通常、夏季に流行する急性のアデノウイルスによる感染症です。

一般的な経過では、5～7日の潜伏期において、発熱で発症し、頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともに、咽頭炎による咽頭痛、結膜炎による結膜充血、眼痛、流涙等がみられます。眼症状は一般的に片方から始まり、その後他方にも出現します。

ほとんどの場合、重症化することなく軽快しますが、心肺機能に基礎疾患をもつ小児では重症化の危険性があります。

飛沫感染や患者が触れた物を介しての感染と考えられています。

[ヘルパンギーナ]

乳幼児を中心に、夏季に流行するコクサッキーウイルスによる感染症です。

一般的な経過では、2～4日の潜伏期において、突然の38～40℃の発熱が1～3日間続き、咽頭は軽度で発赤し、口蓋から口蓋帆にかけて1～5mmの小水疱、これから生じた小潰瘍、その周辺に発赤を伴ったものが数個認められます。ほとんどの場合、重症化することなく軽快します。

飛沫感染や患者の便を介しての感染と考えられています。

[治療]

安静と水分補給・解熱など患児の症状に応じた対症療法です。

集団生活は感染の可能性も考え、十分体力が回復してから通園させてください。

[予防]

咽頭結膜熱・ヘルパンギーナとも現在ワクチンはありません。

感染予防対策として以下を参考にしてください。

- 1.うがい・手洗いの励行
- 2.感染者と密接な接触を避ける
- 3.タオルの共用を避ける

はなみ会HP

<http://hanamikai.com>

